

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 株式会社 江戸カルチャーセンター

1 事業の趣旨・目的

東京都の外国人登録者数は平成20年10月時点で約40万人。全国第一位である。平成15年から17年までは、微増にとどまっていたが、その後は、2万人ずつ増加している。区市町村別では、新宿区、江戸川区、足立区、港区の順で多い。

当校が所在する港区は、上記同時点でアメリカ国籍が最も多く、朝鮮・韓国籍、中国籍となっているが、近年では、朝鮮・韓国籍、中国籍の増加が目を見ている。

平成20年12月の港区外国人意識調査報告書によると、コミュニティ活動等への参加意向について、「地域の日本人自治会・町会活動に参加したい」が29.3%、「種類を問わずコミュニティ等の活動には興味、関心はない」が25.1%。それに次いで、「港区内の同国人のコミュニティ、グループがあれば参加したい(20.2%)」、「港区内に限らず同国人のコミュニティ、グループがあれば参加したい(19.4%)」となっている。順位でみると、第3位、第4位であるが数値ではそれほど差はなく、区内に在住する外国人が同国人のコミュニティを活用したいと考えていることが読み取れる。

そこで、当校では、この状況を踏まえ、一定以上の日本語能力を有し、同じ国籍のコミュニティの指導者としての資質と日本社会における習慣や規則に関する知識と日本人の価値観を熟知している韓国・朝鮮籍、中国籍の外国人を主な対象とし、同国人のために日本語指導と生活等でのアドバイスができる人物を養成することを趣旨とした講座を開講する。

受講生が受講後、同国人コミュニティの牽引者となり、自分の国と日本をつなぐ架け橋の存在として豊かな国際社会に貢献し、日本の地域社会の中で多文化理解の機会を提供することにより、地域の日本人とともに生きる地域社会を創造することを目的とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
12月22日 19:00～20:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎	講座カリキュラムの作成 受講者募集方法の提案	講座カリキュラム案を作成。受講者募集方法について、どこに、どのようにアプローチをかけていくべ

				きかを案を出し合った。
12月27日 19:00～20:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎	講座カリキュラムの確認 受講者募集方法の確認・指示	講座カリキュラムの確認をし、受講者募集方法について、どこに、どのようにアプローチをかけていくべきかを話し合った。
1月21日 18:00～19:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎 関山聡之	受講者募集方法の洗い出し。	受講者募集が困難を極めたため、可能性のあるあらゆる方法を探った。
2月26日 18:00～19:00	江戸カルチャーセンター	山田泉 春原憲一郎 木村哲也 中澤百百子 中澤進太郎 関山聡之	講座カリキュラム詳細の確認。講座終了後の確認。	講座終了後のレジメの送付や報告書製作について話し合った。

【写真】(会議風景)



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成
- (2) 研修の目標 外国人が住みやすい日本にするための日本語指導者を養成する。
- (3) 受講者の総数 13 人
- (4) 開催時間数(回数) 20 時間 (7 回)
- (5) 参加対象者の要件・・・日本語能力を有する外国人
- (6) 受講者の募集方法・・・親交があるボランティア団体への情報提供
親交がある企業・団体への情報提供
- (7) 研修会場
講義・・・ 赤坂陽光ホテル第一会議室(3/2 3/3 3/6)
江戸カルチャーセンターD 教室(3/9 3/10 3/11 3/16)
- (8) 使用した教材・リソース
担当講師が作成したプリント
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
3 月 2 日(月) 9:30～14:00	オリエンテーション・参加者の紹介 外国人市民がコミュニティに対してできること	山田泉氏(法政大学キャリアデザイン学部教授) パク・ヘスク氏(らいこむ多文化教室代表、川崎市外国人市民代表者会議委員) オム・ヨンジュ氏(映画製作、映像専門翻訳、専門学校等で映像関連講義)	8
3 月 3 日(火) 9:30～14:00	①誤解を受けないメールの書き方 ②外国人は、日本語をどう理解するのか 言葉のトラブルについてワークショップ	①岩瀬ありさ氏 (YMCA 東京日本語学院講師) ②パク・ヘスク氏	6
3 月 6 日(金) 9:30～14:00	①間違えやすい文法 ②高度の日本語を専門家に確認する 文化の違いによるトラブルについてのワークショップ	①江田すみれ氏 (日本女子大学文学部教授) ②パク・ヘスク氏	7
3 月 9 日(月) 9:30～14:00	地域のキーパーソンになるために 日本語を使って進行、司会などのスキルアップの実際	パク・ヘスク氏	5
3 月 10 日(火) 9:30～14:00	異文化体験ワークショップ 違いを理解することの難しさと素晴らしさについて	山田泉氏	6
3 月 13 日(金)	外国人だからこそできること	オム・ヨンジュ氏	5

9:30～14:00	すぐに役に立つ映像翻訳の実際を学ぶ		
3月16日(月) 9:30～14:00	ことばと文化の違いを認めて、乗り越え活用するまでに 反省とまとめ	山田泉氏 パク・ヘスク氏 オム・ヨンジュ氏	10

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

当講座では、講座修了後、受講者対象に修了アンケートを行った。有効被験者は10名。無記名形式で行った。各項目別の結果は下記の通り。

01. 講座の期間はいかがでしたか。 ☐ 短かった…1名 ☐ ちょうどよかった…9名 ☐ 長かった…0名
02. この講座をどこで知りましたか。 ☐ 江戸カルチャーセンターのHPで…4名 ☐ 江戸カルチャーセンターからのチラシ・DMで…0名 ☐ 所属団体のメーリングリストで…0名 ☐ 友人・知人の紹介で…4名 ☐ 講師からの紹介で…2名 ☐ その他…0名
03. 講座に参加されて、よかったですか。 ☐ とてもよかった…7名 ☐ よかった…3名 ☐ あまりよくなかった…0名 ☐ よくなかった…0名 ・外国籍の人の活躍、前向きな姿勢など参考になりそうだから。 ・いろいろな人と話して、いろいろなことが勉強になったから。 ・他人に頼るのではなく、自分が行動すればいいという言葉で、刺激を受けたから。
04. 講義はいかがでしたか。 ☐ とてもよかった…7名 ☐ よかった…3名 ☐ あまりよくなかった…0名 ☐ よくなかった…0名
05. 今回の参加目的は何でしたか。(複数回答可) ☐ 日本語を学ぶ学習者の現状を把握するため…2名 ☐ 高度な日本語を学習するため…0名 ☐ 地域や同国人コミュニティで指導的役割を担いたいから…6名 ☐ 知人やコミュニティに伝えるため…0名 ☐ 生涯学習の一環として…3名 ☐ 他の受講者と情報を交換するため…3名 ☐ その他…0名
06. 受講して、当初の参加目的が、どのくらい達成されましたか。 ☐ ほとんど達成できた…0名 ☐ ある程度達成できた…9名 ☐ あまり達成できなかった…0名 ☐ 全く達成できなかった…0名 ☐ まだわからない…1名

07. 講義の内容で、今後活動に生かせそうなことは何ですか。 自分の地域で同国人に何か役立てること…2名 言葉で困っている外国人に日本語を教える…3名 わからない、無回答…5名
08. 講義の内容で、今後習得していかなければならないと思ったことは何ですか。 もっと自己表現をすること…2名 自分が持っている能力を生かせるよう積極的になること…2名 自信を持つこと…1名 無回答…5名
09. 今後どのような活動をしていこうと考えていますか。 外国人の子供のための勉強会での活動…1名 プライベートレッスンで日本語を教える…1名 日本語指導者としてコミュニティーでの活動…4名 無回答…5名
10. 今後どのような講座があったら、受講したいですか。 今回と同じような講座…1名 今回よりもっと深い内容の講座…3名 無回答…6名
11. 事務局の対応はいかがでしたか。 ☐ とてもよかった…5名 ☐ よかった…5名 ☐ あまりよくなかった…0名 ☐ よくなかった…0名 ・受講を終えた人の相談にのってもらいたい。
12. その他感想など、ご自由にお書きください。 ・国籍にかかわらず、本当の意味で国際交流ができるといいですね。 ・すぐ使えるようなもっと深い講義を受講したいです。 ・もっとこのような講座を増やしてほしい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

講座修了アンケートで、受講者の方から

「今後すぐ使えるような深い講義を受講したい」

「受講を終えた人の相談にのってもらいたい」

「今後自己表現をし、積極的に行動することの大切だということに気づいた」

「今後地域のコミュニティーでの活動を考えている」

という意見を引き出したのは、この講座が「受講者が受講後、同国人コミュニティーの牽引者となり、自分の国と日本をつなぐ架け橋の存在として豊かな国際社会に貢献し、日本の地

域社会の中で多文化理解の機会を提供することにより、地域の日本人とともに生きる地域社会を創造する」という目的を達成する足がかりになったと評価している。

ただ、登録者(13名)の割に、出席率が高くなかった回もあり、開講の時間帯への再考が必要かと思われる。今回は、平日午前中で、しかも週3日(月・火・金)だったこともあり、参加可能な受講者が限られてしまったきらいがある。講義を担当してくださった講師の方から、平日ではなく、休日を利用すれば、受講者が参加しやすいとの指摘をいただいた。今後は、この点を考慮した上で講座カリキュラムを編成していきたい。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

先にも述べたが、当校が所在する港区在住の外国人は、近年では、朝鮮・韓国籍、中国籍が増加傾向にある。また、区内に在住する外国人が同国人のコミュニティーを活用したいと考えていることから、今後は港区並びに港区内のボランティア団体等に呼び掛け、主に朝鮮・韓国籍、中国籍を対象とした活動の基盤を築きたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当講座は、日本人との話し合いの場も設けた。協力していただいた日本人の多くはボランティア団体所属者。今後、当校では日本人協力者が所属するボランティア団体に受講者を団体活動の補助者として採用してもらえるよう働きかける。

② 研修後の人材活用

当校は港区で行われている定住する外国人を対象とした行政サービスの補助者として、受講者本人の希望があれば登録する用意がある。現在は、ボランティアという形態だが、できるだけ早い段階での雇用を働きかけていく。

(12) 今後の課題

講座運営上の課題では、受講者の修了アンケートでも指摘を受けている。

①学んだことをすぐ使えるような深い講義を受講したい。

②受講を終えた人の相談に乗ってほしい。

受講者の多くが「実用的な内容の講座を受講したい」また「受講後の進路についても相談に乗ってほしい」との希望があり、当校としても、この講座の次へのステップを提案できるシステム整備が課題となるだろう。

また、受講者募集に苦労した点や、登録者の出席率が低かったこと点を考えると、開講の時間帯、募集方法を見直す必要があるだろう。